

「伝道する教団の形成」に向けて

第2回伝道委員会

第37総会期第2回伝道委員会は6月27日(月)～28日(火)長野本郷教会(1日目)と信州教会(2日目)にて開催された。

27日夜は、教団伝道委員会主催の伝道講演会を諸教会に案内して開催した。石橋秀雄教団議長により『「今この時」ー日本基督教団の伝道ー』との主題で講演がなされた。詳細は別枠の報告にゆずることとする。

今回は、張田眞宣教委員長、北紀吉伝道方策検討委員長長の陪席も得て、両委員会の取り組みに聞きつつ「伝道する教団の形成」に向けて協議した。

2012年2月27日(月)～28日(火)開催予定の

「教区伝道委員長会議」のテーマ設定について連携して準備することを確認した。2012年6月25日(月)～26日(火)西千葉教会にて開催予定の「教区伝道委員長会議」については、地方教区の実情、教区格差の現実を踏まえつつも、伝道とは何かを確認すること、教職謝儀互助や伝道協力の共通基盤を確認すること、信仰の一致による伝道を目指すこと等のほか、東日本大震災支援に関する課題の取り上げ方を時間をかけて協議し、継続審議とした。

「伝道ノイテア・アンケート」については、担当者から集計資料が提出された。諸教会の協力により充実した内容を持つ資料となり、これをどのように発行するかを協議した。アンケートの内容には教団伝道委員会への要望も含まれ、今後の

ために生かす所存である。加えて今総会期も伝道委員会による伝道応援を実施することを確認した。委員会を開催する際、諸教会のニーズをあらかじめ調査し必要に応じて委員が前日の主日礼拝の説教奉仕を引き受けることにした。

次回は9月26日(月)～27日(火)に東中国教区の蕃山町教会にて開催される。

また、仙台、福島を訪問し、原発周辺を視察したいとの希望があり、事務局で調整することとした。

また、来年7月23日(月)～24日(火)に予定されている全国社会委員長会議は、震災、原発を踏まえたテーマとすることとし、その詳細については継続審議とした。

2日目は、淀川キリスト教病院の礼拝に出席し、その後、病院伝道部会議室において、田村英典牧師(伝道部長)より、伝道部の動きについて説明を受けた。淀川キリスト教病院の医療理念「全人医療」の根幹となっているキリスト教を堅持し、医療に反映させることを伝道部の使命とし、毎日行われる礼拝の全館放送、全病床への無料テレビ放送など、日常的にキリスト教にふれることができるように工夫されていることを聞いた。

その後、質疑応答により理解を深め、会議を終了した。

被災地現地訪問から課題を共有

第2回社会委員会

6月6日(月)～7日(火)、第37総会期第2回社会委員会が大阪のぞみ教会にて開催された。

村上恵理也委員の司式による開会礼拝を行い、委員会を開催した。第1回委員会議事録(案)を承認し、続いて担当幹事及び担当職員よりA)業務報告、B)

以上の報告を受け、9月12日(月)～14日(水)に開催される第3回社会委員会開催地及び内容を変更することにした。開催地については、被災地もしくはその周辺で行うこととし、開催可能な教会を事務局で検討することとなった。

また、仙台、福島を訪問し、原発周辺を視察したいとの希望があり、事務局で調整することとした。

また、来年7月23日(月)～24日(火)に予定されている全国社会委員長会議は、震災、原発を踏まえたテーマとすることとし、その詳細については継続審議とした。

2日目は、淀川キリスト教病院の礼拝に出席し、その後、病院伝道部会議室において、田村英典牧師(伝道部長)より、伝道部の動きについて説明を受けた。

淀川キリスト教病院の医療理念「全人医療」の根幹となっているキリスト教を堅持し、医療に反映させることを伝道部の使命とし、毎日行われる礼拝の全館放送、全病床への無料テレビ放送など、日常的にキリスト教にふれることができるように工夫されていることを聞いた。

その後、質疑応答により理解を深め、会議を終了した。

また、来年7月23日(月)～24日(火)に予定されている全国社会委員長会議は、震災、原発を踏まえたテーマとすることとし、その詳細については継続審議とした。

「『今この時』ー日本基督教団の伝道ー」

… 石橋議長による伝道講演会 …



伝道がなくなると教会形成と信仰の一致がなくなる

6月27日(月)から28日(火)にかけて長野県の長野本郷教会、信州教会を会場に、第37総会期第2回の伝道委員会が持たれた。

今回は特に、信徒にも呼びかけた東神大紛争の中で、「伝道がなくなると教会形成と信仰の一致がなくなる」という御言葉が不承に力付けられ教えられた経験を、感謝を持って語った。

講演は、氏が出遭った体験を軸に語られた。

一つは自身の卒業時期に遭遇した東神大紛争の中で、「伝道がなくなると教会形成と信仰の一致がなくなる」という御言葉が不承に力付けられ教えられた経験を、感謝を持って語った。

氏は3月11日は東京神学大学の卒業式に出席していた。礼拝の最中に地震勃発、近藤勝彦学長の説教が6分に亘って中断したことを受け「この時から日本基督教団が、日本の教会が変わった、と後の世で言われるようにならないといけない。そのために今、私たちはどのような出来事的重要性を歴史の観点と試験を乗り越える観点から語った。また「11246」を祈りの時として提唱し、この時を覚え続けることで、この時から変わったと言える、と「今」を定義した。

「『今この時』ー日本基督教団の伝道ー」と題して、石橋秀雄日本基督教団議長によって行われた。講演には多数が参加し、教区外からの参加者もあった。

石橋氏は議長就任以来、「伝道に熱くなる教団、伝道に熱くなる教会へ」との目標を掲げてきた。今回の講演の骨子もそこに置かれていた。

氏は、この講演の前日に教会で使徒言行録を学び終えたことから話を始め、「教団の現在の状況の中で使徒言行録を学んできたことの意味、「教団での様々な働きを担う中で使徒言行録の御言葉を学び、神の言葉が神の言葉として礼拝の中で響くこと」によって支えられていること」の恵みと大切さについて述べた。



2010年に献堂した長野本郷教会を会場に

謝恩日献金、目標額の半分以下

第2回年金局理事会

第37総会期第2回年金局理事会がさる6月16日・17日(木・金) 教団会議室で開催され、教区代表理事、東京教区支区代表を含め28名(沖繩教区は欠員)が出席した。

この件は第3回常議員会に議案として提出されることとなった。

「年度末に発生した大震災で先ず受給者の方々の安全を心配したが、全員無事であったことを感謝して報告できた。769名の教師、その遺族に年金を、また5名に一時金、4名に脱退一時金を支給し、総計4億5、100万円を滞りなく支給できた。資産運用については、リーマンショック後の低迷から立ち直りつつあった時、未曾有の大震災に襲われ厳しい年度末を迎えたが、運用益は目標額を上回り4、298万円確保できた。保有の有価証券の評価はマイナス2億1、700万円。昨年年度末より1、700万円評価損が拡大し

た」等報告された。

謝恩日献金は目標額1億1千万に対して総献金額は4、345万円、全教会の約半分にあたる974教会が献金した。一定額の献金を

教区会計から支出することを決議した教区は5教区になった。

目標額と献金額の乖離の大きさを如何に捉えるか、

「謝恩日献金」が献金目標に相応しい名称か、献金参加教会率を高めるためにどうするか、等について各教区代表理事・東京教区支区代表は教区状況、方針、

方策について報告し、また

前記の課題について時間をかけて討議した。討議の結果、目標は高く掲げ、地道な努力を今後も積み重ねていくことを確認し、謝恩日献金1億1千万円を含む2012年度の年金局計画額については、来年1月の理事会で承認し、来年2月の常議員会に提議することに

した。

また 名称「謝恩日献金」に関しては検討を継続することになった。

第4回財政検証を実施し、その結果前回と比較して責任準備金が約10%減少し、今後給付が2、3年は微増するがその後横ばい状態になると示された。これは教団年金が健全化し成熟

障がいを通して現れる神の恵みを分かち合う

第1回「障がい」を考える小委員会

2011年6月13日(月)14日(火)に日本キリスト教会館A会議室にて、第37総会期第1回「障がい」

選出された。篠浦千史前委員長にも陪席をして貰った。

前期委員会からの申し送り事項として、①病と障がいの理解を深めてゆく。②全国交流会を、2012年度に開催できるように努力する。③主の招きに応じし、書記に井上隆昌委員が

もの乗り越えて行くための情報発信をしてゆく。以上の3点を確認した。

この小委員会の在り方について協議がなされ、障がいを持つが故に直面するさまざまな課題を担い、障がいを通して現れる神の恵み

を分かち合うことを確認し、

「障がい」を考える全国交流会を2012年7月3日(火)～4日(水)に戸山サンライズにて「東日本大震災を通して障がいを考える(仮称)」というテーマで開催することを企画した。「ホームページ」は、2012年6月まで加藤委員長が管理し、新しく知的障がいのコーナー開設することにした。また、被災地に於ける障がい者にとっての配慮が必要となるかという「震災関連アドバイス」を載せることにした。アドレスは(日本基督教団「障がい」を考える小委員会 <http://sky.geocities.jp/uccjshogan/>)。



上段左から、野村(幹事)、稲松、宇野、草深(職員) 下段左から、井上、加藤委員長、鈴木

消息

杉瀬 祐氏(隠退教師)



11年6月11日、逝去。歳。福岡県に生まれる。年同志社大学神学部を卒業、同年宮崎教会に赴任、神戸教会、京都教会を経て、久が原教会を牧会し、61年より同志社女子大学に務め、同志社教会、上賀茂伝道所(当時)を兼務し、80年より91年まで神戸女学院に務め、95年に隠退した。遺族は娘・星和賀子さん。

東日本大震災に関する 宣教委員長声明

天地の造り主、イエス・キリストの父である神を崇めます。

抱える方々のことを心にとめています。す。すべての人が守られますように。救援・復興・支援のために尽力しておられる方々、また、福島第一原子力発電所で重大事故の収束のために労しておられる方々に感謝いたします。その労が報いられますように。

被災教会とともに教区・教団・関係諸団体とはさまざまな緊急救援活動を行ってきました。諸外国の多くの教会からも支援の手が差し伸べられたこととありました。復興・支援の動きは今後も長く続くとあります。時が良くても思っても御言葉を宣べ伝え、御国を待ち望む信仰と力とを与えられて重荷を分かち合い、神の栄光を仰ぐこととなりますように。

東日本大震災とその余波によって生命を失い、あるいは親しい者たちと社会基盤とを奪われて困難をかかえている多くの方々のことを覚え、主の平安と慰めとを祈ります。また、高齢、年少、さまざまな障がいや弱さを

大震災に襲われた地域もまた伝道が非常に困難な地域でありましたが、諸教会は礼拝を守って伝道を堅実に続けてこられました。主によって与えられる救いとその信仰こそまことの慰めであることを私どもは知っています。福音が伝えられ、また、証しされるために教会の存立と働きとが整えられますように。主の憐れみ

2011年6月30日

日本基督教団宣教委員長

張田 眞

共に祈り、支えよう！

Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

2011年3月11日の東日本大震災発生から3ヶ月余が過ぎました。被災地域におきましては、未だ厳しい状況にあり、また今後多額の資金が長期的に必要とされます。そのため、第37総会期第3回常議員会において、6月末日をもって「東日本大震災緊急救援募金」を終了し、新たに「東日本大震災救援募金」を開始することが決定いたしました。教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共にこの救援募金にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記

目標額 10億円(国内のみ)
期 間 2011年7月1日～2015年3月31日
使 途

- | | |
|--------------------------------|-----|
| 1. 被災教会の会堂再建・補修支援費 | 5億円 |
| 2. 被災地域のための社会福祉事業、キリスト教学校への支援費 | 2億円 |
| 3. 被災地の教会が行う地域への支援活動費 | 1億円 |
| 4. 被災地域への支援活動費 | 1億円 |
| 5. 被災された信徒および外国籍の方への支援費 | 1億円 |

*支援期間は、おおそ5年を目途としますが、支援内容によっては長期にわたる場合もあります。

<郵便振替先>

振替番号 00110 - 6 - 639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

2011年7月

日本基督教団 救援対策本部長 総会議長 石橋秀雄

平和メッセージ

2011 年平和聖日

日本基督教団 総会議長 石橋秀雄
在日大韓基督教会総会長 崔 栄 信

死者・行方不明者を合わせて 2 万人以上を出した未曾有の災害である東日本大震災は、私たち日本に住むすべての人々に大きな痛みと苦しみをもたらしました。特に、東北から関東にかけての約 500 キロにわたる沿岸部を飲み込み、人間の生活の営みを無残に破壊し尽くした津波は、恐るべき自然の力に対する畏怖の念と、そこに暮らす私たちに人間の弱さとはかなさをあらためて悟らせました。このような悲劇の中で、私たち日本にあるキリスト者たちは、私たちの人生に与えられた「故なき患難」の意味を苦しみながら探しつつ、今大きな痛みの中にある人々と共にその痛みを分かちあいながら、それでもなお望みを持って復興への道を歩み始めています。なぜなら、「ひとり子の十字架の上での死」という絶望的な出来事でさえ全人類の救いへの器とされた神は、この絶望をも、私たちが測り知ることのできないその善きご計画にしたがって、未来の希望への器と変えてくださると私たちは信じているからです。

私たち、日本基督教団と在日大韓基督教会は、それぞれの復興支援策を通じて、被災地の教会とキリスト者たちのみならず、すべての人々に寄り添い、その苦しみと痛みを共に担っていくことを決意しています。そのために、すでに実施された緊急支援の他にも、被災地の復興と人々の生活の再建と魂の回復のためのサポートを、教会復興支援と同時に中・長期的に進めることをすでに計画し、実行しています。さらに、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ 25:40) と説かれた主イエスの精神にのっとり、被災地における災害弱者(子ども、障がい者、高齢者、外国籍者)を取り巻く問題に、特に大きな関心を払いつつ、復興支援を進めていきます。またこれらの支援策のなかで、必要に応じて両教団が協力し互いの働きを支え合うことこそ、1984 年に両教会の間に結ばれた宣教協約のひとつの結実であると信じています。

一方でこの大震災は、私たち日本に住む人々の間違った歩みを明らかにしました。人々の予想をはるかに超える地震と津波の破壊力によって、その制御機能を失い崩れ落ちた福島第一原子力発電所は、最悪の放射能汚染を引き起こし、今も多くの人々の命を危険にさらしてい

ます。実に、原子力の軍事利用によって大きな被害を受けた唯一の被曝国であり、核の恐ろしさを他のどの国よりも知っているにもかかわらず、この日本は「必要性」「安全性」「経済性」、そして最近では「親環境性」というスローガンのもと、発電の原子力化を推し進めてきました。また、今回の重大事故に際して日本政府は、一触即発の危機的状況や、人の健康に重大な影響を及ぼす深刻な汚染状況が継続していたにもかかわらず、その事実を多くの部分において隠蔽し、むしろ放射能の被曝基準値を引き上げることによって急場をしのぐという、人々の命と生活に対する責任を放棄する行動を取っています。すでに、これまでの原子力推進政策を支えていた「必要性」「安全性」「経済性」、そして「親環境性」というスローガンのどれもが虚偽であったことが明らかになりました。東日本に住む人々の命を危険にさらし、全地球の環境に影響を与えているこの原発事故は、とどまることを知らない利便性と利潤の追求の道を歩むことを選択したこの国と、そしてそれを支えたこの国に住む人々が引き起こした「人災」であり、そういう意味でこれは、手をつけてはならなかった強大な力を我がものにして驕り高ぶっていた私たち人間の罪に対する警告であるのではないのでしょうか。

日本基督教団と在日大韓基督教会は、この未曾有の震災状況と取り組みつつ、次のことを真摯に祈り求めつつ、共同の歩みを重ねていくことを表明いたします。

- 被災者に対する公共の中・長期的支援が、精神的なケアも含めて適正に行われること。また被災者支援にあたる民間の努力に対して、政府による支援が十分に行われること。
- 被災した外国籍者に対する公共の支援とケアが適正に行われること。また災害弱者に対する虐待や差別的待遇の有無が監視されること。
- 日本政府と東京電力が、原発事故と放射能汚染に関わる全ての客観的事実を、隠すことなく明らかにすること。
- 原発事故により警戒区域・緊急時避難準備区域・計画的避難区域に指定された地域の住民たちに対する生活保障が、完全に実施されること。
- 原発事故後、原発作業員の被曝量、また子どもたちの被曝許容量の引き上げに関し、その合理的な根拠を明示し、その値を適正值にもどすこと。
- 全ての原発の稼働を停止し、廃炉を前提とした処置が取られること。また原子力発電に取って代わる自然エネルギーの開発が全力で取り組まれること。

事務局報

教師異動

山鹿 辞主(松谷眞理

活水中学高校

辞教(高橋良隆

一関 辞代(邑原宗男

就主(高橋良隆

能代 辞主(西川和子

就代(飯田啓子

東奥義塾 辞教(天野海走

青森松原 辞主(願念 望

就代(衛藤満彦

国分寺 辞代(定家修身

就主(願念 望

北六甲 辞(兼主)山本有紀

就主(松谷眞理

同志社国際中学高校

辞教(山本有紀

東北学院中学高校

辞教(三枝千洋

陸前古川 就担(三枝千洋

東北学院大学

就教(原田浩司

隠退より復帰

西垣二一

教師隠退

山田斐章、瀧沢徳雄、

清水 潔、平田 哲、

知花真康、明星 晃、

山鹿文子、平松実人、

荒川義治、長山恒夫、

上野清次郎、五島 勝、

町頭良行、吉新治夫、

大野恵正、定家修身、

浅原真砂、戸井雄二、

柳谷 明、高崎芳輝、

柿本俊子、加藤 満、

白石仁志

休職より復帰

川本恵子

通信先廃止

千葉北総、

港南希望

DCE 異動

大阪城北 (辞)小見のぞみ



宮田 康男さん

「茹でガエル理論」
ご存じですか？



茨城 Y M C A 総主事、水海道教会員。

鍋の中に蛙を入れて、じわじわと温度を高くしていくと蛙は、鍋から出て行くチャンスを探し、茹でたってしまう。常に、身の周りの変化に敏感でなければならぬという教訓「茹でガエル理論」。

仕事にたずさわる中で、繰り返し思い起こす。教会もキリスト教主義の活動も、自らが置かれている世で起っていることに気がつかないでいると茹でたってしまう。

70 年代、新聞で Y M C A ホテルの募集を見つけて就職した。職場の人間関係に悩み、松戸教会に通い洗礼を受けた。それ以来、教会と Y M C A の活動に身を献げている。茨城 Y M C A に設立の時から関わり、現在、総

地縁、血縁による結びつきが希薄な地域にあつて、キリスト教的な背景を持つてコミュニティを再建して行くことが課題である。子育て支援、青少年教育、障がい児の自立支援の 3 つを柱にして活動している。

子どもがバイオリンを習うにも英語ということも珍しくない

す。

4 月 18 日の東日本大震災対策を審議する教団臨時常議員会の時、「今年は四役が手分けして、全教団の問安を致します」とお話ししました。

「教団の一致」これを崩してはなりません。今、教団は教団信仰告白で一致しています。この信仰の一致を崩してはなりません。この信仰の一致のもとに「伝道する教団の再建」ということは、わたしの悲願です。

わが日本基督教団は「主の御体なる教会」と信仰告白で告白され、「主の主権」のもとにある教会で

教団の一致と大震災への全教団的取り組みを

東日本大震災の被災教区の教会の痛みと苦しみも、「主の御体なる教会」としての教団の痛みであり、苦しみです。

この信仰の一致において、東日本大震災への対策と取り組みがな

されなくてはならないと考えています。

救援対策本部が掲げる大震災の 10 億という献金目標も、この信仰の一致において可能となる、信じています。

この切なる思いと祈りをもって、議長として 7 教区の問安をさせていただきました。

そして、その感想は、感想というより「ただただ、祈り続けて、主の御体なる教団の教会を形づくって行きたい」この思いを新たにされました。

(教団議長 石橋秀雄)